



TITLE:

共同研究/平成9年度公開実験授業 の成果と課題

AUTHOR(S):

京都大学高等教育教授システム開発センター

CITATION:

京都大学高等教育教授システム開発センター. 共同研究/平成9年度公開
実験授業の成果と課題. 京都大学高等教育研究 1998, 4: 1-1

ISSUE DATE:

1998-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53544>

RIGHT:

共同研究／平成9年度公開実験授業の成果と課題

大学教育における授業の構造と構造化

田 中 毎 実 京都大学高等教育教授システム開発センター

公開授業における相互研修の効果と問題点

石 村 雅 雄 京都大学高等教育教授システム開発センター

学生の満足する授業過程分析に向けて（序報）

溝 上 慎 一 京都大学高等教育教授システム開発センター

尾 崎 仁 美 大阪大学大学院人間科学研究科

平 川 淳 子 大阪大学大学院人間科学研究科

授業のフレームと日常の知——「何でも帳」を主とした相互行為分析を通して——

大 山 泰 宏 京都大学高等教育教授システム開発センター

はじめに

京都大学高等教育教授システム開発センターは、平成8年度から全学共通科目「ライフサイクルと教育」（月曜4時限、通年、田中毎実教授担当）を学内外の関係者に公開し、授業後に検討会を実施してきた。この公開実験授業のプロジェクトは、3カ年の実施を見込んでおり、11年度以降は、別の大学授業開発プロジェクトに切り換える予定である。したがって、今回のプロジェクトは、平成9年度でその半ば以上が完了したことになる。私たちはこれを、大学授業研究のための「実験」の場として生かし、それとともに、「公開」授業として教官の相互研修のために活用しようと試みてきた。このプロジェクトは、教育実践であり、相互研修であり、授業研究である。これまでの成果と課題については、折にふれて報告してきた¹⁾。以下の共同研究では、主に平成9年度の実践について報告し、当年度の研究主題、研究方法、成果、残された課題などについて議論する。

注

- (1) 田中毎実「定時公開実験授業〈ライフサイクルと教育〉(1)——平成8年度実施のために」「定時公開実験授業〈ライフサイクルと教育〉(2)——一般教育と相互研修に焦点づけて」（京都大学高等教育教授システム開発センター『京都大学高等教育研究第2号』1996／同『第3号』1997 所収）／「大学における公開実験授業——京都大学におけるの一年間」『学会会報』No. 816. 1997／京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして——京都大学公開実験授業の一年間』玉川大学出版部 1997／田中毎実・杉本 均・溝上 慎一『平成8年度公開実験授業の記録 京都大学高等教育叢書3』1998など。なお、平成9年度講義については、大学教育学会第20回大会（国際基督教大学／1998年6月6日）で、次のような共同発表を行った。『連続発表 公開実験授業の成果と課題』（「1 「何でも帳」から見た相互コミュニケーションと授業の生成変化 大山泰宏」「2 大学授業における「参観者」の変化 石村雅雄」「3 集団討議における「補助手段」としてのビデオ撮影 溝上 慎一」「4 大学授業における構造の構造化 田中毎実」）。この連続発表は、本共同論文を下敷きにしたものであったが、その要旨は、『大学教育学会誌』の次号に掲載予定である。なお、先の『開かれた大学授業をめざして』については、四つの懇切な書評および図書紹介（川嶋太津夫『IDE 現代の高等教育』1998年3月号／松浦良充『教育哲学研究』教育哲学会機関誌第77号／鳥光美緒子『近代教育フォーラム』教育思想史学会年報第7号／別府昭郎『教育学研究』日本教育学会機関誌第65巻第3号）をいただいた。四氏のご苦勞とご好意に対して、こゝで感謝の意を示しておきたい。